

2022年
No.96
4月1日発行

国際こだいら



KODAIRA INTERNATIONAL FRIENDSHIP ASSOCIATION (KIFA)

小平市日本語発表会



●KIFAの法人化 ●にほんごプレスクール ほか

撮影協力：こだフォト部

第7回小平市日本語発表会

2021年12月12日(日)中央公民館ホール

市内の日本語教室に通っている学習者の発表の場となる日本語発表会、二年ぶりの開催となった今年は、開始10分前から満員になるほどの大盛況でした。

発表は、市内の小中学校で英語のアシスタント（ALT）をしている、ナイジェリア出身のマイクさんから始まりました。日本でのパーティについて、「音楽もダンスもなくつまらない。」という率直な感想に、どっと笑いが起こりました。

次は、スリランカ出身のリナーシャさん。コロナ禍で帰国出来ず両親と離れているけれど、日本の高校に入って将来は会社を作りたいとの決意を、スラスラと発表しました。出番が終わり席に戻った途端、「はぁー。」と大きなため息が聞こえ、とても緊張していたのが分かりました。

続いて、ウズベキスタン出身で東京農工大学の研究者のアジズさん。2021年の東京オリンピックについて、沢山の資料をスクリーンに映し出し、様々な視点から分析していました。二人の幼い息子たちが客席で行儀良く聞いていて、感心しました。

4番目の発表者、タイ出身のアヌソンさんは、早稲

田大学で博士号取得を目指しています。「日本の文部科学省の奨学金制度はとても有難い。日本とタイの関係を深める勉強がしたい。」と語る姿に、勤勉な人柄が感じられました。

その次はオーストラリア出身で、中学や高校で英語を教えているステファニーさん。神社やお寺のお参りの手順を友達に教わったり、お味噌汁の作り方を寿司屋の“お母さん”に聞いたり、小平での生活を楽しんでいる様子を生き生きと話してくれました。

そして最後は、留学生の李泰欣（リ タイシン）さん。友人が見守る中、来日する理由にもなったソフトウェア音源『初音ミク』について、参加者が圧倒されるほど熱く、語ってくれました。

発表が終わると、司会として場を和ませた王宇鵬（オウ ウホウ）さんが、日本語を教える人への感謝を述べ、そして学習者には「一緒に頑張りましょう。」と励ましの言葉をかけ、明るい雰囲気でも幕を閉じました。閉会後は、お花やプレゼントを持って来た友人や日本語会話教室の先生と、ほっとした発表者が談笑している姿があちこちで見られ、心温まる一日でした。



一般社団法人小平市国際交流協会が発足しました!

小平市国際交流協会は、設立以来30年余にわたり「任意団体」として活動をしてきましたが、令和4年4月1日に、一般社団法人小平市国際交流協会として登記申請を行いました。設立当時は市民レベルの国際交流と国際理解の推進を目的とされましたが、時代とともに活動範囲が広がり、翻訳通訳事業や災害時対応など社会的責任も大きくなりました。リスクマネジメントと社会的信用獲得の観点から、法人格の早期取得が必要だと考えられたのです。

2013～14年度に開かれた組織検討委員会では、様々な法人形態を比較検討し、多くの国際交流協会がそうであるように、KIFAも「一般財団法人」を目指すべきだと結論付けました。財団法人を設立するために必要な資金の確保のために、事業の見直しや積立金の確保に努めてきましたが、コロナ禍で事業が思うように運営できない事態に直面し、十分な資金確保の計画が立てられなくなっていました。

そんな中、2020年度に「法人化検討委員会」が立ち上がり、ボランティアなどの人的財産を基盤とする「社団法人」がKIFAに適しているという結論に至りました。2021年3月の理事会で、「一般社団法人」への移行を目指すことが正式に決定いたしました。

一般社団法人KIFAは、会員が支える組織で、会員によって選出された社員からなる社員総会が意思決定を行う法人です。会員とは新生KIFAではボランティアのことで、社員とはボランティアグループの代表者です。これまでの「国際交流と国際理解」を中心とした事業体制から、「多文化共生」へ移行し、各ボランティアグループと事務局が、これまで以上に協力して事業を企画実行していくことが必要になってきます。また、理事には外国人支援分野の有識者がそろいました。誰もが暮らしやすい多様性を認める小平市となるよう、理事会と会員とが協力して取り組んでいきたいと思います。

KIFA法人化で何がどう変わるのか

取材日：2月7日

KIFA法人化について、機関紙ボランティア3名で河原事務局長と事務局の西間さんにインタビューをしました。

①「多文化共生を中心とした事業体制への移行」とは

従来の国際交流や親善事業は、日本人が外国人をもてなし、理解し、助ける活動でした。しかし近年、同じ地域で共に生きる住民として協力し様々な課題と一緒に取り組んでいくことが大切だ、と考えられるようになってきました。過去30年間積み上げられてきたKIFAの事業を継続しつつ、法人化を契機として、すべての活動に「多文化共生」の考え方を取り込んでいきたいそうです。

具体的には、「にほんごプレスクール」(次頁参照)のような新しいプロジェクトで、準備段階から外国人住民が参加している例があります。



河原事務局長(右から2人目)と機関紙ボランティア

②一般社団法人KIFAはどう運営されるのか

法人の憲法ともいえる「定款」をもとに説明がされました。

A：会員制が明確化されます。一般社団法人KIFAは普通会員、賛助会員、学生会員の3種類の会員が構成する法人になります。個人と団体は、定款の主旨に賛同し会費を払って会員となります。

B：普通会員として活動する各ボランティアグループの幹事ならびに普通会員の団体が、一般社団法人の社員となり、社員総会を通して最高決定権を持ちます。(非営利法人である一般社団の社員はよく会社の株主に例えられますが、単に配当をもらわない株主という意味ではなく、社団の理念を遂行する主体であると理解しました。)

C：理事に関しては設立時社員(発起人)によって「外国人支援分野の有識者」が選出され、最初の社員総会で信任されて理事会を構成するそうです。

③インタビューに参加した留学生ボランティアの見方

法人化に伴うメリットの一つは、KIFAが、より信用できる組織として社会に認められやすくなることです。そして「多文化共生への移行」は、これまで受動的な参加者だった外国人住民が主体的な協力者として、また会員としてKIFAで活躍する機会を増やします。日本人と外国人が共に課題に取り組み、小平をより住みよい街にしていけるということです。

今後、より詳しい情報がホームページに掲載されます。ぜひホームページをご覧ください。

「にほんごプレスクール」準備会議

取材日：1月22日

KIFAの日本語会話教室でボランティアをしている原藤子さんは、文化庁主催の地域日本語教育コーディネーター研修を受講中です。研修の一環として、日本語教育プログラムの編成・実施を行います。原さんを中心に、こども日本語教室などでボランティアをしている西村智美さん、鶴美樹さん、長谷川庸子さんとチームを組み、「就学を控えた子どもを対象としたにほんごプレスクール」を実験的に実施することになりました。

小平市内には、日本語が母語ではない子どものための就学前の日本語支援がありません。にほんごプレスクールをきっかけに、子どもの日本語教育が重要なことを知ってもらうだけでなく、保護者にも日本語教室へ来てもらうなど、KIFAが提供する様々なサービスにつなげていきたいそうです。日本の学校の習慣を知らないために起こってしまうトラブルの回避にも繋げていけたらともおっしゃっていました。

子どもは日常会話を覚えるのは早いのですが、読んだり聞いたりして理解する力は簡単にはつかないので、なるべく早い段階で日本語の学びをした方が良さそうです。

今回の取り組みを成功させるためには、まずは市内在住の外国人に「にほんごプレスクール」のことを知ってもらう必要があります。そこで保育園や幼稚園の園長会や民生委員の会議など、市役所と連携して宣伝しました。一人でも多くの保護者に、にほんごプレスクールのお知らせが届くことを願っているとのことでした。

理想としては、半年間位のプランを立てて行えると良いそうです。今回は全4回で実施しますが、今後は参加者の希望や必要に合わせて検討していく予定です。不安を抱えた保護者の安心できる居場所にもなって欲しいという言葉に、子を持つ親としても共感させられました。

「未就学児向けの日本語教育の大切さは、まだまだあまり知られていないので、ボランティアの私達が動くしかない。」と熱意と使命感に燃えておられる姿に大変感銘を受けました。手作りの練習帳兼ワークブックも完成し、自分達ができる最高のものを与えたいという思いが伝わってきました。2月に開催されるにほんごプレスクールへの期待がますます高まります。



ボランティア手作りの教材

「にほんごプレスクール」実施しました！（全4回）

当日の教室をのぞいてみました！

取材日：2月12日（土）

「きをつけ！」「おねがいします！」と元気に挨拶して始まった2回目のにほんごプレスクール。この日の参加者は、中国出身とウズベキスタン出身の親子。まずはみんなで今日の日にちを言います。西村先生が天気の色を見せながら「今日の天気はどれかな？」と質問すると「晴れ！」と大きな声で答える子ども達。手遊び歌で楽しく、手は膝の上、足はピタン、背中はピン、手はグーと前回練習した座る姿勢の復習をしました。

まず原先生から学校に持って行く持ち物について学びます。最初に紹介したのはランドセル。続いてランドセルの中に入れるものを紹介していきます。筆箱や教科書やノート、下敷き、ハンカチ、ティッシュ、水筒、クレヨン、体操着など次々に出てくるものの名前を子ども達に答えて



もらいます。体操着など、運動の時に着ることは知っているも、呼び方が分からないものもあります。そこで先

生は、用意したハテナボックスの中にこれまで紹介したものを入れ、子ども達には手で触ってそれが何かを当てるゲームにチャレンジしてもらいました。

次はミキ先生です。犬、猫、蟹の絵を見せながら発音の練習をしていきます。生き物の次は数字の1から4までを一緒に発音しました。

さらに、ようこ先生は、ホワイトボードに書き方のお手本を見せます。子ども達はまずお手本通りに指でなぞってから、練習用のページに記入していきます。先生達は上手に書けるまで優しく誉めながら教え、書けると「わあ、上手にできたね」と花丸を書いてくれるので、子ども達は楽しそうに取り組んでいました。

最後は手遊び歌で遊んでから、折り紙で作ったペンギンのプレゼントをもらって、にほんごプレスクールは終了です。残りの時間は子どもと保護者が別室に別れて、保護者は学校に持って行く持ち物や連絡帳について詳しく丁寧に説明してもらいました。積極的に質問があり、今後も是非継続して欲しいとの要望も出ていました。不安が少し解消されて安堵した保護者の表情に、このプレスクールの意義を改めて感じました。あっという間の楽しく充実した90分でした。

※全4回を通して、3家族（中国・ウズベキスタン・ナイジェリア出身）4名の子どもたちが参加しました。



小学校入学ガイダンス

2月20日(日)



小学校に入学する子どものいる外国人の保護者を対象に、日本の小学校についての説明会がありました。参加者は5家族(中国、ベトナム、ウズベキスタン、ナイジェリア出身)、生活情報提供チームにより毎年開催され今回が8回目です。当日は、保育サービスがあり、英語と中国語の通訳も付き添っての実施でした。



体験談を語るロヒアさん

前半は、「外国籍保護者のための小学校生活ガイドブック」の資料を基にパワーポイントによる説明です。内容は、日本の教育システムから学校の1日、年間行事を経て、学校のルール、子どもの健康、災害時の対応など、学校のことをひととおりわかるものでした。その後、親の経験談ということで、オランダ出身のロヒアさんから話がありました。学校からの手紙は毎日のように来るので、内容がわからない場合、友人などに助けてもらうのが良いこと、学年が上がると宿題も多くなり、親が手伝うことが多くなること、運動会の日には弁当を持たせることなど、実際に経験し伝えておきたいアドバイスがありました。

この後は、質問タイムです。参加者によって質問の内容が違うので、個別対応となりました。まず、ランドセルは買わなくては行けないか、との質問です。日本ではほとんどの子どもが買うようですが、決められているわけではありません。ランドセル以外を使いたい場合は学校と相談するようにアドバイスがありました。また、子どもは日本語で学習することが中心になるため、母語を習得することがおろそかになるなどのジレンマがあるという悩みも聞かれました。他には、保育園からの手紙が、手書き文



学用品の展示

編集後記

暖かくなり、春から始まる新生活に期待で胸をふくらませる方も多いのではないのでしょうか。私は現在就職活動中で、今までの人生を振り返る機会が非常に増えました。当時は泣きじゃくり、両親に迷惑をかけた海外生活も今ではかけがえのない財産です。まだまだ未熟な私ですが、これから経験する1つ1つの事に全力で取り組み、自身の財産にしたいと考えております。4月からのスタートが皆様にとってより良いものでありますように。(S.F)



これからの行事予定

- ◎日本語会話教室 通年 月・金・土曜日
- ◎こども日本語・学習支援教室 通年 水曜日
- ◎英会話教室 前期(5~7月)・後期(9~翌3月)
- ◎スペイン語講座(入門・初中級) 5月~翌3月 金曜日
- ◎JLPT直前対策講座 5月28日~6月25日 土曜日(全5回)
- ◎国際子どもクラブ 6月~7月 土曜日

※詳しくはKIFAミニレターおよびHPをご確認ください。

2022年度は 次のような事業を行います

※新法人設立に伴い、事業の分類が変わります。事業内容は、2021年度から継承して実施します。

I 多文化共生に関する事業

日本語会話教室、こども日本語・学習支援、日本語発表会、翻訳・通訳事業、生活情報提供、災害時外国人対応 ほか

II 国際交流に関する事業

国際交流フェスティバル、ホームビジット、スポーツ交流の促進、交流イベント ほか

III 国際理解に関する事業

国際子どもクラブ、英会話教室、外国語会話教室、多文化理解講座、世界の料理紹介 ほか

IV 情報収集、調査研究及び広報

機関紙(年3回)・情報紙(年10回)の発行、電子情報の発信 ほか

V その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

ボランティア活動推進、連携事業 ほか

字どとかえって読みづらいという話もあり、なるほどと思いました。パートで働いている場合でも学童に入れるのかという心配も出されました。これはボランティアさんが市役所に確認してから情報提供することになりました。

質問はまだまだありそうでしたが、大事なのは身近で相談できる相手がいるかということのようです。生活情報提供チームのみならず、KIFAには経験豊富なボランティアさんがたくさんいるので、ぜひ頼ってほしいものだと思います。そして、外国人の子どもが日本の学校に行くことの大変さを感じさせられました。



発行日 2022年4月1日
発行 一般社団法人
小平市国際交流協会
編集 機関紙グループ
〒187-0045
小平市学園西町2-12-22
学園西町地域センター 3階
TEL. 042-342-4488
FAX. 042-347-3003
Eメール: info@kifa-tokyo.jp

